



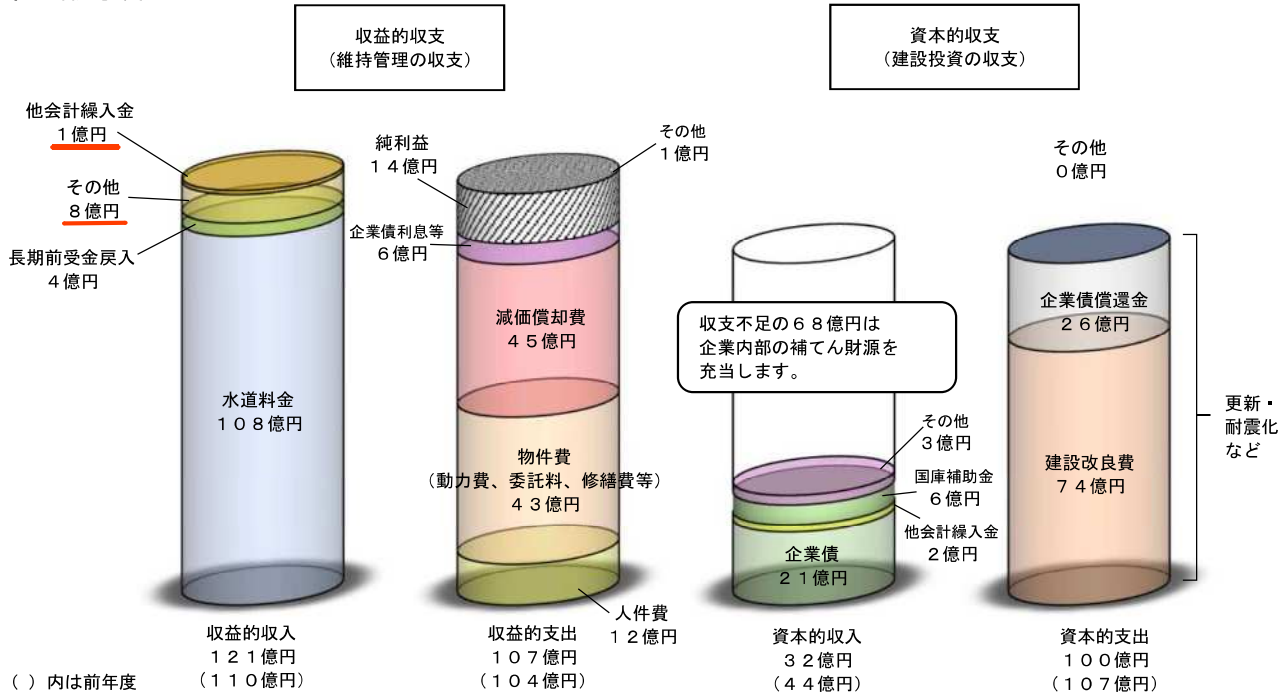
令和 8 年度当初予算の概要・ポイント



上下水道局 令和8年度当初予算の概要・主な実施事業

1 水道事業

(1) 当初予算



(2) 前年度予算との比較

※各金額を百万円未満四捨五入で表記しているため、合計額や差引額が一致しない場合があります。

(単位: 百万円)

項目	令和7年度 予算額①	令和8年度 予算額②	②-①
収入			
水道料金	9,835	10,808	973
長期前受金戻入	395	384	▲ 11
その他収入	633	838	205
他会計繰入金 (一般会計)	121	110	▲ 11
収入計	10,984	12,140	1,156
支出			
人件費	1,143	1,195	52
物件費	4,197	4,309	112
減価償却費	4,353	4,483	130
企業債利息等	513	593	80
その他	237	89	▲ 148
支出計	10,443	10,669	226
純利益	541	1,471	930

(単位: 百万円)

項目	令和7年度 予算額①	令和8年度 予算額②	②-①
収入			
企業債 (借入金)	3,814	2,147	▲ 1,667
他会計繰入金 (一般会計)	206	210	4
国庫補助金	130	576	446
その他	250	279	29
収入計	4,400	3,212	▲ 1,188
支出			
建設改良費	8,184	7,416	▲ 768
企業債償還金	2,336	2,601	265
その他	200	0	▲ 200
支出計	10,720	10,017	▲ 703
差引	▲ 6,320	▲ 6,805	▲ 485

※企業債残高について

令和6年度末残高(決算額) : 45,364百万円

令和8年度末残高(見込み) : 49,815百万円 +4,451百万円

【用語の解説】

- ・減価償却費：固定資産の取得原価を耐用年数にわたって徐々に費用化するもの
- ・長期前受金戻入：固定資産の取得時に財源とした補助金等（長期前受金）を、減価償却に対応して収益化するもの
- ・補てん財源：資本的収支の収入不足額の補てんに用いられる、利益剰余金等の財源のこと

(3) 水道事業 当初予算のポイント

※【拡充】は単なる予算額の増減ではなく、事業の中で新たな取組（新規事業開始、対象範囲拡大等）を始めるもの

令和12年度（2030年度）の目指す姿

安全・安心な水を、持続的に且つ安価に供給する

令和8年度の主な取組

1 水道管・施設の強靱化、計画的な事業の推進

拡充 重要な管・施設の地震対策 3,011,726千円（前年度 5,502,300千円）

取水施設から災害拠点病院や避難所などの重要施設につながる水道管、重要施設に水を供給する施設の耐震化を実施

- ・ 葵区東草深町外導水管及び配水管布設替工事 153,000千円
- ・ 承元寺取水口更新詳細設計業務委託 70,081千円（ほか）

(成果指標)	R6（実績）	R7（見込）	R8（目標）
重要施設への耐震化率	—	0.5%	1.6%

※ R7から成果指標が変更されたためR6は実績なし



耐震化された水道管への布設替

継続 水道管・施設の老朽化対策 3,451,689千円（前年度 2,387,234千円）

管はAIを活用した水道管路劣化予測（R6に試行）などの新技術を検証・導入し、施設は点検による健全度評価により状態監視保全を行うことで効率的に更新を図る

- ・ 清水区中央・遠方監視制御設備更新工事（継続費 R6～9） 560,000千円
- ・ 清水区月見町・神田町配水管布設替工事 106,908千円（ほか）

(成果指標)	R6（実績）	R7（見込）	R8（目標）
管路の更新率	0.7%	0.5%	0.9%



老朽化した水道管の布設替

2 水道管・施設の規模や配置の最適化

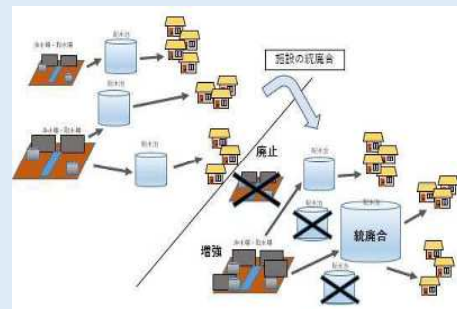
継続 水道施設の効率化 648,101千円（前年度 95,916千円）

水道施設の統廃合を推進することで、効率的な運転や維持管理費を軽減

(成果指標) 施設の統廃合	R1～4（実績）	→	R5～8（目標）
	3施設廃止		1施設廃止
(縮減効果) 維持管理費	R1～4（実績）	→	R5～8（目標）
	約2,020万円/年		約2,320万円/年

- ・ 市内配水量把握（流量計監視・分析）業務 481,038千円
- ・ 富士見ヶ丘配水ブロック等施設配置基本計画策定業務委託 29,975千円（ほか）

R50までに増強8施設、縮小5施設、廃止15施設を目標



施設の統廃合(イメージ)

※ 各事業費については、令和8年度分のみを記載

上下水道局 令和8年度事業概要(水道事業)

R8予算 207億円(収益的支出107億円、資本的支出100億円)

R7予算 211億円(収益的支出104億円、資本的支出107億円)

<水道事業のミッション> 安全・安心な水を持続的に且つ、安定・安価に供給する。

●水道事業が抱える課題

- ①能登半島地震の被災状況から上下水道の耐震化の現状を再評価した結果、上下水道が重要施設に対し一本の線としての耐震化が進んでいないため、地震の後、給排水経路のどこかに損壊が発生すると、その経路上の全ての重要施設で給排水ができない状態となる恐れがある。
- ②水道管延長約2,700kmのうち、法定耐用年数40年を経過した管は2024年度末で約35.4%であり、政令市等(平均28.1%)の中でも高い水準となっている。また、2025年4月の京都市における漏水事故を受け、国土交通省より古い鑄鉄管の更新計画の策定について通知があり、緊急輸送路下に埋設している鑄鉄管は2026年からの5年間で約20.4km、それ以外の鑄鉄管は10年間で約15.2kmを更新または撤去する必要がある。
- ③人口減少に伴い、水需要は減少しているが、有収率が低いため、施設規模の効率化が図れていない。

※()は前年度事業費

●施策1:水道管・施設の地震対策

予算額:30.1億円(55億円) ⇒ 管:24.4億円 施設:3.1億円 事務費:2.6億円 【国費:5.6億円】

○方向性

選択的線的耐震化を進めるため、「上下水道耐震化計画」を定め、「2035年の目指す姿」として、災害時においても災害拠点病院、災害対策本部、中学校区1箇所の避難所(給水拠点S)にて給排水ができる状態とし、2040年には小学校区に最低1箇所の避難所(給水拠点A)において給排水ができる状態を目指す。

○2026年度の主な取組 ※重要施設22施設に接続する給水ルート of 耐震化完了予定

(1)管 …①城内系統 ②八幡系統 ほか

(2)施設…①八木間-富士見が丘系統 ②八木間-庵原系統 ほか

●施策2:水道管・施設の老朽化対策

予算額:34.5億円(23.9億円) ⇒ 管:20.6億円 施設:10.8億円 事務費:3.1億円【国費:0.2億円】

○方向性

老朽化した水道管や水道施設を効率的に更新するため、水道管はAIを活用した余寿命診断、施設(機械設備)は点検による健全度判定を導入し、状態監視保全を行う。また、緊急輸送路下に埋設した鑄鉄管約20.4kmを2026年からの5年間で優先的に更新する。

○2026年度の主な取組

(1)管 … 清水区月見町・神田町配水管布設替工事 ほか

(2)施設 … 清水区中央・遠方監視制御設備更新工事 ほか

●施策3:水道管・施設の効率化(有収率の向上)

予算額:6.5億円(0.9億円) ⇒ 管:0.8億円 施設:5.1億円 事務費:0.6億円【国費:0億円】

○方向性

2024年に市企画課が独自で推計した将来人口に基づき、給水人口及び水需要予測を見直し、水源の多重化等を含めた水運用計画の検証を実施し、施設の効率化を図る。また、漏水量の削減のため、水道施設への流入および流出管に流量計を設置し、施設内の漏水や漏水路線を絞り込み布設替及び修繕を行う。

○2026年度の主な取組

(1)有収率の向上

※ 有収率 … 年間の総配水量に対する有収水量(料金収入に結び付く水量)の割合

(直近3年間実績 2022年度:82.3% 2023年度:81.2% 2024年度:79.9%)

①市内配水量把握業務 … 流量監視及び系統別流量の確認・分析を実施する。

②AI技術を活用した漏水リスク評価に基づく漏水調査の実施(収益的収支予算)

・漏水リスク評価を実施し、その結果をもとに調査対象を絞り込むことで、漏水調査延長を縮減し、効率的に調査を実施する。

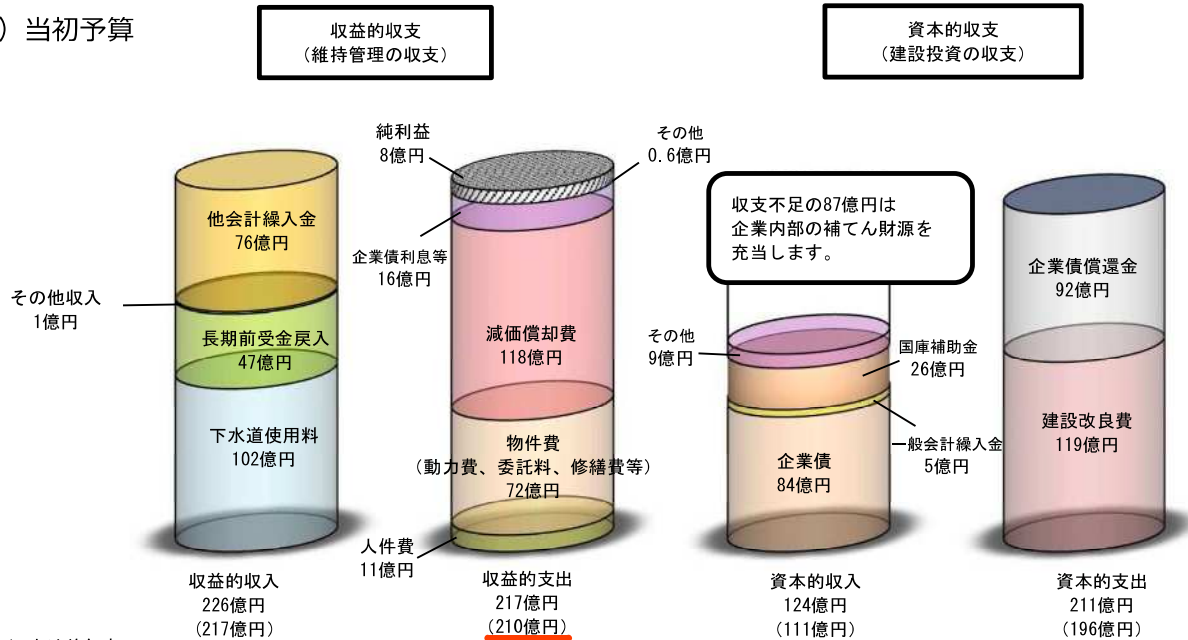
(2)水運用計画に基づいた施設の統廃合

①配水区域の見直し(将来需要に対応する整備)

・富士見ヶ丘配水ブロック等施設配置基本計画策定業務委託 ほか

2 下水道事業

(1) 当初予算



(2) 前年度予算との比較

※各金額は百万円未満四捨五入で表記しているため、合計額や差引額が一致しない場合があります。

(単位: 百万円)

(単位: 百万円)

項目	令和7年度	令和8年度	②-①	
	予算額①	予算額②		
収益的収入	下水道使用料	9,380	10,195	815
	長期前受金戻入	4,718	4,648	▲ 70
	その他収入	126	133	7
	一般会計繰入金	7,426	7,584	158
	収入計	21,650	22,560	910
収益的支出	人件費	1,139	1,070	▲ 69
	物件費	6,330	7,152	822
	減価償却費等	11,931	11,802	▲ 129
	企業債利息等	1,538	1,650	112
	その他	60	59	▲ 1
	支出計	20,998	21,733	735
	純利益	652	827	175

項目	令和7年度	令和8年度	②-①	
	予算額①	予算額②		
資本的収入	企業債	8,259	8,428	169
	一般会計繰入金	434	458	24
	国庫補助金	2,122	2,561	439
	その他	257	918	661
	収入計	11,072	12,365	1,293
資本的支出	建設改良費	10,733	11,823	1,090
	企業債償還金	8,896	9,229	333
	その他	0	0	0
	支出計	19,629	21,052	1,423
差引	▲ 8,557	▲ 8,687	▲ 130	

※企業債残高について

令和6年度末残高(決算額) : 132,014百万円

令和8年度末残高(見込み) : 133,751百万円 +1,737百万円

【用語の解説】

- ・**減価償却費**: 固定資産の取得原価を耐用年数にわたって徐々に費用化するもの
- ・**長期前受金戻入**: 固定資産の取得時に財源とした補助金等(長期前受金)を、減価償却に対応して収益化するもの
- ・**補てん財源**: 資本的収支の収入不足額の補てんに用いられる、利益剰余金等の財源のこと

下水道事業 当初予算のポイント

※【拡充】は単なる予算額の増減ではなく、事業の中で新たな取組(新規事業開始、対象範囲拡大等)を始めるもの

令和12年度(2030年度)の目指す姿

安定的な汚水処理による良好な水環境の保護/ハード・ソフト両面から浸水被害を軽減する

令和8年度の主な取組

1 下水道管・施設の強靱化、計画的な事業の推進

拡充 重要な下水道管・施設の地震対策 1,808,556千円(前年度1,129,969千円)

緊急輸送道路下や防災拠点と浄化センターを接続する等の重要な管の耐震化などを実施

- ・高松処理区 田町稲川遮集幹線下水道管路施設耐震化工事 239,400千円
- ・北部処理区 辻三丁目地内外下水道管路施設耐震化工事 100,000千円 (ほか)

(成果指標)
重要施設への
耐震化率

R6(実績)	R7(見込)	R8(目標)
-	16.8%	17.2%

※R7から成果指標が変更されたためR6は実績なし



耐震化施工後の下水道管

継続 下水道管・施設の老朽化対策 5,615,953千円(前年度4,308,130千円)

計画的な調査・点検に基づく改築及びAI技術を活用した下水道管劣化予測の導入により、経年劣化が原因で起こる道路陥没や施設の処理機能の低下を未然に防止

- ・下水道管路施設調査業務 270,099千円
- ・高松処理区外 水道町地内外下水道管路施設改築工事 128,600千円
- ・AI活用による公共下水道管路劣化予測調査 6,000千円 (ほか)

(成果指標)
管きょ100km当たりの
陥没箇所数

R6(実績)	R7(見込)	R8(目標)
0.36箇所 /100km	0.20箇所 /100km	0.40箇所以下 /100km



改築後の汚水ポンプ(イメージ)

2 自然災害による被害の最小化

継続 浸水対策 2,739,697千円(前年度2,495,607千円) ※収益的支出を含む

(ハード対策) 浸水対策推進プランに基づき、浸水対策地区の雨水幹線、雨水ポンプ場など基幹施設整備を着実に実施

- ・大沢排水区 雨水渠築造工事(その1~3)(債務負担R7~9) 1,002,000千円
- ・巴川右岸第2排水区 渋川雨水ポンプ場設備工事(電気・機械設備含む)(債務負担R6~8) 886,192千円 (ほか)

(成果指標)
浸水対策率
(対策完了地区数)

R6(実績)	R7(見込)	R8(目標)
65.3% (17地区)	69.2% (18地区)	69.2% (18地区)

(ソフト対策) 迅速な災害対応や、自助・共助に繋がる情報発信

- ・内外水ハザードマップ作成業務負担金 24,900千円 ※収益的支出
- ・浸水情報提供システム運用保守業務 4,895千円 ※



渋川雨水ポンプ場
完成イメージ図

3 下水道管・施設の規模や配置等の最適化

継続 下水道管・施設の効率化 119,573千円(前年度706,902千円)

人口推計に基づき、計画汚水量を算出し、処理場・ポンプ場の統廃合やダウンサイジングを検討

- ・下水道管・施設の効率化に係る検討業務 114,000千円 (ほか)

※各事業費については、令和8年度分のみを記載

上下水道局 令和8年度当初予算の概要(下水道事業)

R8予算 428億円(収益的支出217億円、資本的支出211億円)
R7予算 407億円(収益的支出211億円、資本的支出196億円)

<下水道事業のミッション> 安定的な下水処理により、良好な水環境を保全するとともに浸水被害を軽減する。

●下水道事業が抱える課題

- ①能登半島地震の被災から、上下水道の耐震化の現状を再評価した結果、上下水道が重要施設に対し一本の線としての耐震化が進んでいないため、地震の後、給排水経路のどこかに損壊が発生すると、その経路上の全ての重要施設で給排水ができない状態となる恐れがある。
- ②耐用年数を経過した管や施設の増加により、下水道管の破損に起因する道路陥没事故や施設の機能不全等の発生が懸念される。
(管:延長約2,530kmのうち標準的な耐用年数を経過した管が約8%、施設:約10,000資産(施設・機器等)のうち標準的な耐用年数15年を経過した資産が約67% 2024年度末時点)
- ③気候変動に伴う降雨量の増加や短時間豪雨の頻発化等を踏まえた浸水対策を実施する必要がある。
- ④人口減少による使用料収入の減少に伴い、維持管理費の縮減や施設規模を適正化する必要がある。

●下水道管・施設の地震対策

※()は前年度事業費

予算額:18.1億円(11.3億円)⇒管:12.3億円 施設:4.9億円 事務費:0.9億円【国費:5.7億円】

【地震対策】

○方向性

選択的線の耐震化を進めるため、「上下水道耐震化計画」を定め、「2035年の目指す姿」を、災害時においても災害拠点病院、災害対策本部、中学校区1箇所の避難所(給水拠点S)にて給排水ができる状態とし、2040年には小学校区に最低1箇所の避難所(給水拠点A)において給排水ができる状態を目指す。緊急輸送路下等の下水道管についても、引き続き耐震化に取り組んでいく。

また、施設については、揚水機能を確保することを優先し、耐震化を実施していく。

○2026年度の主な取組

(1)管(管更生、可とう性継手)

- ①城北処理区 重要施設:城東保健福祉エリア ほか
- ②中島処理区 重要施設:県立こころの医療センター ほか

(2)施設

- ①静清処理区 耐震化詳細設計 ほか
- ②中島処理区 耐震化工事(Co擁壁の増打、鉄筋補強)ほか

【津波対策】

南海トラフ地震で想定される津波に対し、想定津波浸水域に位置する静清浄化センターと中島浄化センターについて、汚水処理機能を確保するため、津波防護壁等を検討する。

また、静岡県実施の二級河川巴川河口部の津波対策(水門)事業の支障となる、静清浄化センターの放流渠について、移設先検討を行う。

○2026年度の主な取組

(1)津波対策検討業務 (2)放流渠移設検討業務

●下水道管・施設の老朽化対策

予算額:56.2億円(43.1億円)⇒管:26.1億円 施設:27.5億円 事務費:2.6億円【国費:10.1億円】

○方向性

調査結果に基づき、健全度2の箇所について改築を実施するとともに、埼玉県八潮市の道路陥没事故を踏まえ、二条化などのリダンダンシーの確保に向けた検討を進める。また、施設についても、再構築基本計画に基づき計画的に改築を行う。

○2026年度の主な取組

- (1)管 …高松処理区外 水道町地内外下水道管路施設改築工事 ほか
- (2)施設…城北浄化センター汚泥濃縮設備改築工事 ほか
- (3)下水道管路施設のリダンダンシー確保に関する計画策定業務

●施策3:浸水対策

予算額:27.4億円(25億円)⇒管:14.1億円 施設:11.5億円 事務費:1.8億円【国費:9.7億円】

○方向性

浸水被害軽減のため、浸水対策推進プランに基づき引き続き整備を進める。

○2026年度の主な取組

- ・大沢排水区 大沢雨水渠築造工事 ほか
- ・巴川右岸第2排水区 渋川雨水ポンプ場築造工事 ほか

●施策4:下水道管・施設の効率化

予算額:1.2億円(7.1億円)⇒管:0.1億円 施設:1.0億円 事務費:0.1億円【国費:0円】

○方向性

効率的な事業運営に向け、処理場・ポンプ場の統廃合やダウンサイジングの検討を行う。

○2026年度の主な取組

- ・下水道管・施設の効率化に係る検討業務 ほか

水道料金、下水道使用料の改定に係る広報について

1 概要

2025年度に実施した2026年6月使用分からの水道料金・下水道使用料の改定に係る検討や審議の中で、上下水道事業経営協議会委員や市議会議員から市民に対する丁寧な説明を要望されたことから、できるだけ利用者の理解が得られるよう、以下のような広報を実施した。

2 広報の内容について

今回の料金等の改定において、少量利用者と中量・大量利用者で改定率に差があり、受ける影響が異なるため、広報についても一般市民向け（少量利用者想定）に加えて、利用水量が多い民間事業所向け（中量・大量利用者想定）を実施した。

(1) 一般市民向け広報（少量利用者想定）：2026年1月以降

- ・市HP（料金改定特設ページ）、SNSによる周知（1月～随時更新）
- ・広報しずおかに記事掲載（2月号 [1/20]、4月号 [3/20]）
- ・区役所窓口番号案内表示システムを活用した周知 [2月～]
- ・自治会連合会説明（市自治会連合会[3/2]、葵区[3/6]、駿河区[3/17]、清水区[3/6]）
- ・検針時に広報チラシ各戸配布（約32万9千件） [4～5月]
- ・公共施設（52施設）に広報チラシ配架 [4月～]
- ・上下水道局公用車側面に広告（マグネット）を貼付、周知 [4月～]
- ・区役所1階ロビーでのパネル展示による周知 [4月]
- ・エスパルスホームゲームでの大型ビジョンによる周知 [4/25, 29]
- ・テレビ、ラジオでの周知（コミュニティFM [4/22]、静岡朝日テレビ [4/30, 5/9]等）

※市民からの電話、メールでの意見では、「具体的な値上がりの額」や「改定理由」の問い合わせがあったほか、「負担軽減のための補助金があるか」「市の事業（アリーナ等）の財源を料金の負担軽減に回してほしい」などの意見があった。

(2) 民間事業所向け広報（中量・大量利用者想定）：2026年1月以降

- ・清水商工会理事会で説明 [1/28]
- ・大量利用者へ個別訪問 [1～2月] ※広報チラシ：別紙2
（水道料金・下水道使用料合算額2024年度実績上位44者、中小企業団体6団体）
- ・静岡商工会議所の常議員会で説明 [2/26]
- ・静岡商工会議所会報誌に広報チラシを同封 [3月] ※広報チラシ：別紙2

※個別訪問では、どの事業所においても、料金改定自体に批判的な意見は無く、耐震化の推進による料金改定の必要性をご理解いただいた。また、「どの位料金があがるのか」「もう少し早く情報が欲しかった」「自施設の周辺の耐震化はいつ頃行われるのか」などの意見があった。

2026年6月使用分から 水道料金・下水道使用料を 値上げします

～大地震時も、水を使って流せる安全・安心なまちへ～

大地震後、早い段階で市民の皆様が水道（給水）や下水道（排水）を利用できるように、最重要な給排水経路を選択して耐震化を進め、上下水道が一本の線としてつながっている状態（＝選択的線耐震化）を目指します。そのためには、コスト縮減に取り組み、国の補助金などを活用しますが、それでもなお財源が不足することから、水道料金・下水道使用料の値上げをお願いすることとしました。

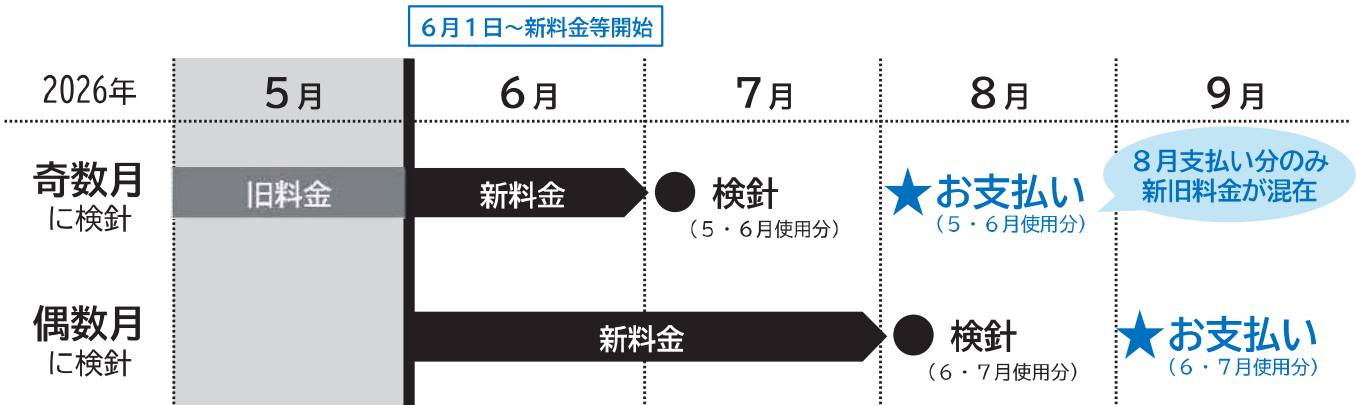


← 詳細はこちら
市HPの「検索メニュー」から
ページID【56373】で検索

皆様のご理解とご協力をお願いいたします

水道料金 と 下水道使用料 が値上がりする時期

※定例検針の場合



奇数月に検針する地区：2026年8月お支払い分（7月検針分）から値上げとなります。

偶数月に検針する地区：2026年9月お支払い分（8月検針分）から値上げとなります。

※2か月に一度、水道メーターを検針し、2か月分で請求しています。
水道料金・下水道使用料は、検針月の翌月10日までにお支払いいただきます。



< お問合せ先 >

内 容：水道料金・下水道使用料の値上げに関すること
連絡先：上下水道経理課
☎：054-270-9204、9205

内 容：料金・使用料の請求金額に関すること
連絡先：上下水道お客様サービスセンター
☎：054-251-1132

モデルケース別 新旧料金（水道料金 と 下水道使用料）の比較と値上げ額

水道メーターの口径20^{ミリ}
使用水量40^{m³}の場合
(一般家庭(2~3人世帯)等)



水道メーターの口径40^{ミリ}
使用水量1,000^{m³}の場合
(スーパー、事業所等)



水道メーターの口径75^{ミリ}
使用水量10,000^{m³}の場合
(大規模事業所等)

水道 5,214円 → 5,650円
+436円 (+8.4%)

水道 198,000円 → 245,400円
+47,400円 (+23.9%)

水道 2,145,550円 → 2,705,370円
+559,820円 (+26.1%)

下水道 5,554円 → 5,998円
+444円 (+8.0%)

下水道 208,834円 → 263,266円
+54,432円 (+26.1%)

下水道 2,375,834円 → 3,080,366円
+704,532円 (+29.7%)

合計 10,768円 → 11,648円
+880円 (+8.2%)

合計 406,834円 → 508,666円
+101,832円 (+25.0%)

合計 4,521,384円 → 5,785,736円
+1,264,352円(+28.0%)

※上記は、2か月分・消費税込みの金額です。

【参考】水道メーターの口径20ミリメートルの場合の早見表（2か月分・消費税込み）

使用水量 (m ³)	旧料金 (円)			新料金 (円)			値上げ額 (円)		
	水道料金	下水道使用料	合計	水道料金	下水道使用料	合計	水道料金	下水道使用料	合計
0	1,540	2,034	3,574	1,778	2,258	4,036	+238	+224	+462
10	2,200	2,420	4,620	2,438	2,644	5,082	+238	+224	+462
20	2,860	2,804	5,664	3,098	3,028	6,126	+238	+224	+462
30	4,036	4,180	8,216	4,374	4,514	8,888	+338	+334	+672
40	5,214	5,554	10,768	5,650	5,998	11,648	+436	+444	+880
50	6,776	7,150	13,926	7,586	8,044	15,630	+810	+894	+1,704
60	8,338	8,744	17,082	9,522	10,090	19,612	+1,184	+1,346	+2,530

※料金は、水道メーターの口径や使用水量によって異なります。
その他の水道メーターの口径・使用水量の金額は、市ホームページに掲載している「水道料金・下水道使用料計算シミュレーション」をご確認ください。

詳細はこちら→
市HPの「検索メニュー」から
ページID【967】で検索



2040年までの15年間で目指す姿

大地震が発生しても…

水道・下水道が安心して使える！

- 2035年までに
 - ・災害拠点病院等
 - ・避難所 (中学校区に最低1か所)
- 2040年までに
 - ・避難所 (小学校区に最低1か所)

上下水道一体での「選択的線的耐震化」については、2040年までの15年間で集中投資期間と位置付けて耐震化を加速します。そのために必要な水道料金・下水道使用料の改定については、世代間の公平性（その時点で必要な経費をその時居住している市民で負担するという考え方）の観点や物価等の社会情勢を反映するため、3年ごとに段階的に行います。

改定により耐震改修を進めることで・・・
★断水などの被害が少なくなり、速やかな復旧が可能となることで、市民生活や企業の事業活動への影響が抑えられます！





水道料金・下水道使用料の改定 (2026年6月～)を検討中です

詳細は
市HPへ！

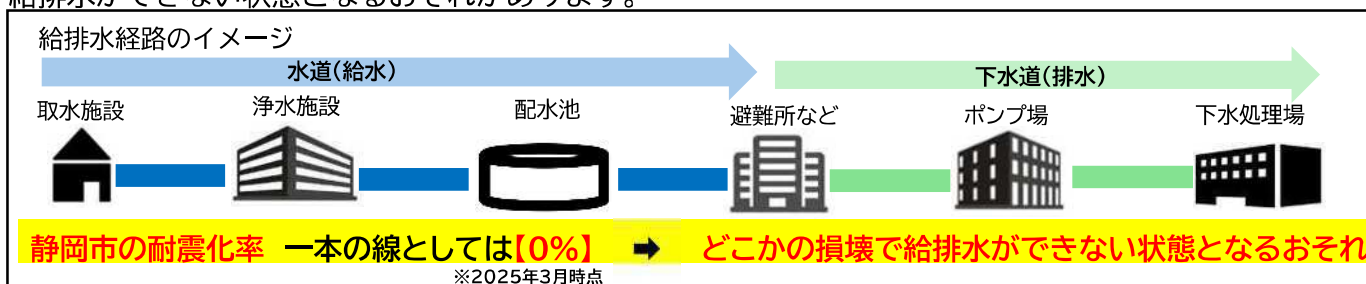


(令和8年市議会2月定例会で審議)

静岡市の上下水道における耐震化の現状

静岡市はこれまで上下水道それぞれの計画に基づき管や施設の耐震化を進めてきました。能登半島地震の経験から、取水から排水処理まで上下水道一体の一本の線（給排水経路）としての耐震化の重要性が再認識されましたが、静岡市ではそれが進んでいません。

そのため、大地震の際、一本の給排水経路のどこかで損壊が発生すると、その経路上の全ての地区で給排水ができない状態となるおそれがあります。



2040年までの15年間で目指す姿

～大地震時も、水を使って流せる安全・安心なまちへ～

大地震後、早い段階で市民の皆様が一定の給排水サービスを利用できるように、**最重要な給排水経路を選択して、取水から排水処理までの経路がつながっている状態とします(=選択的線的耐震化)**。

具体的には、2035年までに災害拠点病院等に加え中学校区に最低1か所の避難所で、2040年までに小学校区に最低1か所の避難所で給排水ができる状態を目指し、15年間で集中投資期間と位置付けて耐震化を加速します。

<市民の皆様への効果>

大地震が発生しても…

避難所などで
水道・下水道が
安心して使える!

優先順位	種別	施設名称	いつまでに
①	人命	災害拠点病院、救護病院、透析病院	2035年 給排水を 確保(※)
②	指令機能	災害対策本部 (県・市庁舎、警察、消防等)	
③	避難生活	避難所 (中学校区に1か所)	2040年 給排水を 確保(※)
④		避難所 (小学校区に1か所)	
⑤		その他避難所等	2040年 以降 給排水を 確保

※一部、施工困難な下水道の耐震化は除く

改定の必要性

上下水道一体での「選択的線的耐震化」を加速していくにあたっては、コスト縮減に取り組み、国庫補助金などを活用しますが、それでもなお財源不足となるため、水道料金・下水道使用料を改定する必要が生じました。

改定案は、学識経験者や公募市民などで構成される上下水道事業経営協議会から市に提出された「静岡市水道料金及び下水道使用料改定に関する意見書」に基づいて作成しました。

改定のポイント ～利用者区分ごとに異なる改定率を設定～

世代間の公平性（その時点で必要な経費をその時居住している市民で負担するという考え方）の観点や物価等の社会情勢を反映するため、3年ごとに段階的に水道料金・下水道使用料を改定することとします。また、次のとおり使用量区分ごとに異なる改定率を設定することとします。

<ポイント1>

他都市と比較して中位となっている
少量使用者の改定率を低めに設定

<ポイント2>

他都市と比較して下位（安価）となっている
中量～大量使用者の改定率を高めに設定

【水道料金・下水道使用料合算（1か月分・消費税込）】
《モデルケース別》

使用量区分 (想定)	少量		中量		大量	
	単身世帯、一般家庭(2～3人世帯)		飲食店、コンビニ、 営業所、店舗	スーパー、事業所	学校、病院、社会福祉施設、 商業施設、大規模事業所	
水道メーター口径 使用水量	20 ミリメートル 10 m ³	20 ミリメートル 20 m ³	25 ミリメートル 100 m ³	40 ミリメートル 500 m ³	50 ミリメートル 1,000 m ³	75 ミリメートル 5,000 m ³
改定額	+231円	+440円	+8,032円	+50,916円	+114,272円	+632,176円
改定率	+8.2%	+8.2%	+23.5%	+25.0%	+26.6%	+28.0%

※人口100万人以下の9政令市比較（静岡市調べ・2025年10月現在）
千葉市、相模原市、新潟市、静岡市、浜松市、堺市、岡山市、北九州市、熊本市

水道メーター口径 使用水量	20 ミリメートル 10 m ³		20 ミリメートル 20 m ³		25 ミリメートル 100 m ³		40 ミリメートル 500 m ³		50 ミリメートル 1,000 m ³		75 ミリメートル 5,000 m ³	
	順位	円	順位	円	順位	円	順位	円	順位	円	順位	円
比較	1	4,884	1	8,052	1	51,348	1	351,818	1	766,578	1	4,274,148
	2	3,146	2	6,377	2	50,231	2	337,111	2	717,711	2	3,927,511
	-	静岡市改定案 3,063	-	静岡市改定案 5,824	3	46,868	3	300,396	3	660,316	3	3,795,273
	3	3,011	3	5,654	-	静岡市改定案 42,247	4	294,413	4	627,537	4	3,657,266
	4	静岡市現行 2,832	4	静岡市現行 5,384	4	42,117	5	271,100	5	569,435	5	3,551,089
	5	2,565	5	5,360	5	41,973	6	258,322	6	562,391	6	3,167,327
	6	2,414	6	5,285	6	40,304	-	静岡市改定案 254,333	7	544,654	7	2,909,456
	7	2,403	6	5,285	7	39,832	7	245,135	-	静岡市改定案 543,321	-	静岡市改定案 2,892,868
	8	2,296	8	5,024	8	37,543	8	221,705	8	461,593	8	2,403,984
9	1,797	9	4,690	9	静岡市現行 34,215	9	静岡市現行 203,417	9	静岡市現行 429,049	9	静岡市現行 2,260,692	

改定により水道・下水道の耐震改修を進めることで・・・

- ★ 大地震発生時においても避難所などで水道、下水道を利用することができます！
- ★ 断水などの被害が少なくなり、速やかな復旧が可能となることで、市民生活や企業の事業活動への影響が抑えられます！



水道料金と下水道使用料が値上がりする時期

	2026年				
	5月	6月	7月	8月	9月
奇数月 に検針	旧料金	新料金	検針 (5・6月使用分)	★ お支払い (5・6月使用分)	初回のみ、 新旧料金が混在
偶数月 に検針		新料金	検針 (6・7月使用分)	★ お支払い (6・7月使用分)	



改定後の料金表は
3月下旬頃に
市ホームページに
掲載します。

<お問合せ先> 静岡市上下水道局経営管理部 上下水道経理課 ☎ 054-270-9204、9205